

「葉隠れ」に学ぶ

1. 小事優先主義

右掲は、「武士道といふは死ぬ事と見つけたり」という勇猛な言葉で有名な佐賀の鍋島藩の藩書「葉隠れ」にあるものです。いつの世も自分では解決できないような大きな事柄ばかりに目がいって、足元にある些事(ささいな事柄)を疎かにして、結局、身を滅ぼすという事を戒めているものです。

「葉隠れ」 大事の思案は軽くすべし 小事の思案は重くすべし

藩(会社)全体に関わるような大きな事を重要視して、そればかりに目が行ってしまふ方が非常に多いのです。そのような大きな事柄は皆も注意しているし、仮に、自分がやるにしても簡単には解決できずに時間のかかるものであり、かつ、自分一人では解決できないような案件なのです。確かに、大きな問題なので目立つのですが、「看脚下」の格言の如く、足元の小さな案件を着実にこなしておく事が重要なのです。誰でもカンタンに済ませられるような用事を放置してしまい、気がついたら、相手がカンカンになっているというケースを避けるべきなのです。

私は、「小事優先主義」と言っていますが、今すぐ着手すると解決できるような小さな案件(雑件)を「その場」で実施するように心掛けています。仕事の手順も同じで、ホンの数分で済むような雑件を優先して「忘れない」ようにしています。

ところが、これが出来ずに「大きな案件」ばかりに目が行ってしまい、今すぐ片付くものを後回しにしてクレームになっている人が結構おられるのです。「小事の思案は重くすべし」は、まさしく、その通りなのです。

2. 現代の小事優先法

今や携帯電話を持たないサラリーマンはいないと言っても過言ではない状況まで「携帯電話」が普及しています。最近では「ネット PC」等と呼んで、パソコンにイーモバイルなどのインターネット接続端末をつけて、それこそ「どこでもオフィス」という利用の仕方が普及しつつあります。こういうITを上手に使うのも「スピーディ」という切り口が重要な意味をもつ時代になったからです。

極端な例では、電話をかけるタイミングで何千万円もの大型機械の商談を失ったケースがあるのです。Aさんは、40代のベテラン営業マンなのですが、あるお客様から機械の商談を頂いて朝一番に訪問したにも関わらず、いつものように、次のお客様様を数件立ち寄って帰社したのです。もちろん、帰社後速やかに機械メーカーに電話を入れたのですが、時すでに遅しでライバルの営業マンに案件を押さえられてしまったのです。ライバルは、Aさんの後に呼ばれて行ったのですが、すぐに、メーカーに電話を入れたので商談の優先権を奪い取ってしまったのです。カンタンに、「携帯電話を何の為に携帯しているのだ」という声があがって来るのですが、時すでに遅しだったので。これで何千万円もの機械の商談が消えたので、個人としても会社としても大きな痛手になってしまったのです。器用な人ほど同じ過ちを繰り返す可能性が高いのでありm、あす。

【まとめ】

1. 大事の思案は軽くすべし、小事の思案は重くすべし
2. 現代は、携帯を使ってスピーディな対応をとるという事も非常に大事な話しなのです。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> でご覧になれます！】